

年頭所感 平成二十一年にあたって

国民生活の安心確保に

輝きを増す皆保険制度

日本医師会会長
唐澤祥人



明けましておめでとございます。皆様におかれましてはお健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日ごろから日本医師会の会務運営に対しまして、厚いご支援と深いご理解を賜り、心より御礼申し上げます。

一昨年夏に表面化した米国のサブプライムローン問題は、昨年9月には金融危機として世界を覆い、わが国でも株価が暴落し、輸出関連企業ばかりか多業種にわたり大不況に陥っています。その影響は、わが国の労働人口の3分の1を占め

るといふ派遣社員、請負社員など、非正規雇用労働者を直撃し、契約解除という名の大量解雇が始まっています。こつした雇用の不安は、社会不安を一層増大させました。昨年発生したいくつかの衝撃的な事件の背景と、社会不安の増大には、少なからぬ関連があると思わざるをえません。

一方、長期にわたる医療費抑制策は、医師不足をはじめ、医療分野を完膚なきまでに疲弊させています。とりわけ専門医療の中核的担い手である病院医師の負担は限界点を越えております。昨年立て続けに起こったハイリスク妊婦の救急受け入れ不能問題は、今日の医療が抱える問題の象徴的な現れと認識しています。早急に具体策を講じ、医療崩壊の拡大を防ぎ、国民の期待に心える地域医療提供体制を強化して、国民の日常生活における安心を確保することが最重要です。将

来への安心・安主が見通せない状態では、地域社会の文化的、経済的活力をも低迷させ、単なる医療問題でなく、ひいてはわが国全体の深刻な社会問題へと発展し、大きな希望を夢見た21世紀は、まさに暗黒の時代に突入してしまつことが危惧されます。

こつした、将来を展望しにくい状況をいかに切り開いていくかについては、われわれ医療関係者の積極的な行動が求められています。その立脚点こそ、わが国が世界に誇る、「いつでもどこでも、だれもが」普遍平等に医療を享受できるという理念の国民皆保険制度です。これは全ての国民にとって掛け替えない財産であります。国民にとって、健康に不安を抱えたままでは快適な生活がおくれなればかりか、明日の見通しも立ちませぬ「国民の生命と健康を守る」という原点に立ち返り活動するとき、国民皆保険制

度は一層輝きを増すことでしよう。

「健康寿命世界一」など、世界的にも高い評価を受けている日本の医療ですが、その実態は、医療関係者の献身的な努力によって成立しているのが実状です。今こそ、地域医療、なかでも小児医療、産科医療、救急医療の早急な再建が必要です。地域医師会が中心となり関係者の力を結集し、地域住民の安心・安全のために寄与することが重要であります。

日本医師会では、日本の将来的医療を展望した「グランドデザイン」を作成し、中長期視点に立ちながらも、喫緊の課題に取り組んでまいります。会員の皆様におかれましては、日本医師会が推進する医療政策に対し、深いご理解と格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ここに、本年が皆様にとりまして、一層安寧で躍進の年でありますよう衷心より祈念申し上げ、新春のご挨拶といたします。

安心と希望の医療確保
在宅への参画も課題に

日本薬剤師会会長
孝 児 玉



新年明けましておめでとございませう。社会保障制度改革、一般用医薬品の販売制度の改正など、私も薬剤師を取り巻く環境は大きく変化しています。医薬分業も57%を超え、いよいよ60%分業の時代が到来しようとしています。処方せん受取率70%を当面の目標としてきましたから、ようやくゴールが見える地点まで来たのではないかと考えています。

ここまで進んだ医薬分業が患者や国民の皆さんに、素晴らしい制度たとして受け止めていただかなければなりません。そのためには薬剤師一人ひとりが調剤はもとより、一般用医薬品の供給などを通じ

て誠実に患者・国民に向き合い、安心して服薬していただけるように努力しなければなりません。

医療費の抑制政策が継続している中、平成20年度の医療費改定は8年ぶりの引き上げ改定ではありましたが、薬価の引き下げを考慮すると、実質はマイナス改定となっております。個別の薬価経営は、処方せんの伸びほどには改善されており、後発医薬品の使用促進と、それに伴う在庫負担を考えますと、厳しい状況にあります。しかし、後発医薬品の使用促進という施策は、薬剤師の努力に委ねられているということも忘れてはいけなないと思います。昨年末の調査では、十分に満足できる数字を示すことはできませんでしたが、薬剤師職能の発揮という観点から、引き続きの努力を会員にお願いしたいと考えています。

平成19年4月から薬局は、医療提供施設として位置付けられています。医薬分業が進展してきたことによる医療法の

改正でありました。地域医療の中で医療提供施設としての責任を果たすことが期待されており、今後は特に在宅医療への参画が強く求められるものと考えています。昨年6月に公表されました“安心と希望の医療確保ビジョン”では、薬局に対して休日・夜間の対応とともに、患者宅への医薬品・衛生材料等の供給、緩和ケアへの対応などが求められています。

在宅医療への対応は、個別の薬局のみの努力では困難な面が多いと考えます。支部薬剤師など組織としての取り組みが重要となってきます。

薬学教育6年制も今年で4年目に入ります。薬科大学、薬学部は長期実務実習の実施先を文部科学省に提出することになります。実習施設を付属施設として持たない薬科大学においては、市中の病院と薬局が実習生の受け入れ先としなければなりません。本会では、実習指導薬剤師の養成を含めて薬局実習の受入体制の確保に努力してきました。実習指導の薬

剤師の養成については、ワークショップへの参加など心配もありましたが、本年度中には全国で8,000名を超える薬剤師がワークショップに参加していただける状況となっており、順調に進んでいるものと受け止めています。来年5月くらいよいよ病院、薬局において、それぞれ11週の実習員がスタートしますが、こちらの方も順調に進むよつ心より願っています。

今年の6月からは、販売時の対面による消費者への情報提供実行を確実に求めて、一般用医薬品の販売制度が大きく変更されます。薬剤師は第一類医薬品はもちろんのこと、調剤や薬局医薬品を含めすべての医薬品の提供に際して適切な情報提供に全力を挙げていかなければなりません。昨年末にはインターネット販売について、消費者の安全を守るため、本会として大きな反対の声を上げ、また行動してきました。二度と規制緩和の声が上がらないよう、新たな販売制度の下で

努力していくことが求められています。

薬剤師の任務は、調剤、医薬品の供給として薬事衛生であります。その目的は“国民の健康な生活の確保”であることを常に念頭において、業務を遂行していく所存であります。

本年もよろしくお願い申し上げ、年頭に当たりましての挨拶とします。

救急医療システムの 在り方等課題解決へ

東京都師会会長
鈴木 聡 男



新年あけましておめでとつございます。日本医家芸術クラブの皆様には、健康で新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。日頃は本会の運営に深いご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

さて、ご高承のとおり、昨年から都内においても、周産期母子救急医療だけでなく救急医療システムの在り方などがこれまで以上に大きな問題となっており

ます。また、都民は予想される新型インフルエンザの流行への備えや対策についても不安を抱いております。これら問題は、現在の医療供給体制が十分に機能しているかどうか、その本質を映し出す鏡であります。その意味でも、東京都医師会は、地区医師会、各種医会、関係団体並びに東京都と協力し、対策協議会やプロジェクトチーム等を発足させ、具体的に何が出来るかについて検討を始めております。

昨年からはじめました、特定健診・特定保健指導の推進にあたりましては、各種連絡会での情報交換が、如何に重要であるかが実証されました。また同様に、昨年四月から東京都脳卒中医療連携協議会が立ち上げられ、今後も二次救急医療と療養病床の役割や、脳梗塞についての

地域連携ハスの普及など、様々な局面での情報交換が益々重要なものとなっております。

さらに、今年より東京都医師会では地球環境保全に向けた新たな取り組みとして、「温室効果ガス削減活動」、いわゆる「CO₂ガス排出量削減プロジェクト」の推進を始めてまいります。十分な成果を上げるまでには、まだ時間が掛かりますが、その第一歩を進めるといふところに社会的な意義があると考えております。何卒会員の先生方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

私たち医療従事者は、地域医療・保健・福祉に取り組み、都民が生涯切れ目のない医療サービスが受けられるよう、常に最大限の努力を行わねばなりません。そして何よりも大切なことは、医療に従事する者一人一人が、常に研鑽を積み、世間の声に耳を傾け、患者さんの立場で物事を考え、そして社会の信頼と期待に答えていくことでもあります。

日本の国民皆保険制度は、日本人古来の精神文化、つまり、互助精神、倫理観、正義感がその土壌としてあったからこそ維持されてきました。この日本人の美しい精神文化は、先生方日本医家芸術クラブの各方面にわたるご活躍の中にも脈々と生きてきております。

しかし医療にも市場の競争原理の導入を図っていった結果、この美しい精神は乱れ、衰退してきております。これは社会の多くの面で、不正、偽造、隠蔽という形でみられますが、医療保険制度にだけは、この影が入りこまないようにしなければなりません。先生方にしっかりと見守っていただき、このような厳しい状況ではあります。是非とも会員の皆様のご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

終わりに、日本医家芸術クラブの限りないご発展と各位のご清祥を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。